展示

「大学図書館のお宝お見せします。」

本展示会は「図書館と県民のつどい埼玉2010」に連携・参加して、埼玉県大学・短期大学図書館協議会(SALA)が行ったものである。大学図書館の対象分野の広さと奥深さを感じていただけたらと企画したものである。展示会は、終日盛況、多方面から多くの反響が寄せられた。

（跡見学園女子大学）
＜メディアの変遷＞
apple が日本でビデオレンタルを開始した。
音楽に続いて、映画もインターネットで観る時代になった。
こうした時代に、「SP 盤」が来ている。
なぜか。

(SP 盤を聴いていると)「うちの座敷にミニチュアのエルヴィスやカザロス、セロニアス・モンクが現れ、レコードの上で、ライブ演奏しているくらい生々しい」(いしいしんじ「朝日新聞」平成２２年８月１５日）作家いしいしんじは、「本」の未来を「SP」盤になぞらえて、「本は SP 盤のように」と
評した。
「SP は、基本的に空気の振動そのものが蓄積され、再生されているのだから、その音色は限りなくナマに近い。マリア・カラスやシャリアピンが、目の前に出現するのである。」
（スポーツジャーナリスト玉木正之公式 WEB サイト）
SP 盤は「電気」を使わない。録音も再生も「電気なし」だ。
「電気」を使っているという意味では、その後の LP も、CD も、MP3 も皆同じだ。
Walkman 以来、音楽は「個人」のものになった。
「音楽」って時間を共有するものだった。
iPad が「本」にとってかわろうとしている。
なぜか、「本」と SP が懐かしい。
でも、毎日本を切り裂き、「自炊」の日々。

（国立女性教育会館）
独立行政法人国立女性教育会館は、平成 20 年 6 月に開設した女性アーカイブセンターの所蔵コレクションのひとつ､「奥むめおコレクション」の中から、消費者運動に関係する資料を展示した。
奥むめお（1895～1997）は、戦前・戦中・戦後を通して暮らしに根づいた女性運動を展開し、日本の消費者団体の草分けである主婦連合会初代会長としても有名である。

今回の展示では、会場にモニタを設置し、昭和 36 年 3 月 1 日に開催された「物価値上反対婦人大会」の映像を放映した。全国規模の女性団体が共同で開催した同大会は、主婦連合会が初めてデモ行進を行ったもので、四ツ谷の主婦会館で大会を行った後、かっぽう着姿でデモ行進する女性たちの様子が映像に記録されている。また、これに関連し、主婦連合会が中心となった、昭和 36，37 年の物価値上げ反対運動の様子を記録した写真や、それを報じた読売新聞（昭和 36 年 6 月 27 日夕刊)、主婦連たより 146 号（昭和 36 年 7 月 15 日)の記事、主婦連合会が作成した、公

共料金一斉値上げ反対ビラの複製などを観覧者が手に取って見ることができるように配した。

当時を知る世代には、映し出される風景を含めて懐かしく感じられ、若い世代には、初めて目にする歴史的な一コマが興味深く感じられる展示であった。

展示資料はいずれも国立女性教育会館女性アーカイブセンターで閲覧できる。

また、一部資料は、女性デジタルアーカイブシステム（http://w-archive.nwec.jp/）で画像の公開もしている。

（淑徳大学）

淑徳大学では、「拓本の世界－石に刻された中国歴史資料」と題し、本学の貴重書である中国拓本コレクションの中から 9 点を展示した。作品の原石制作年代は、紀元前の春秋時代から紀元後の唐時代まで 1500 年にわたり、時代の変遷による書体の変化をたどれるようにした。

今回は、2004 年に西安で発見された「井真成」の墓誌の拓本も展示した。「井真成」は唐の官僚にまで登用された遣唐使だが、病を得て彼の地で亡くなった人物である。墓誌発見当時話題になり、後に NHK でドラマ化されたのでご記憶にある方もいらした。また、書聖「王義之」の作品も展示し、美しい書体をご覧戴いた。

当日の展示作品は以下の通りである。

1. 金文器影拓本　　2. 簿書残碑
3. 西王母画像磚　　4. 日月画像磚
5. 正始石経　　6. 牛橛造像記
7. 井真成墓誌　　8. 法帖
9. 萬歳通天進帖の影印本

（城西大学）

城西大学は「漢方医学古書と道具」と題し、解体新書序図などの古書と薬にまつわる道具を展示した。これらの資料は本学設置の薬学部において現代の医療、薬学、栄養学を学習する上で、歴史的考察の資料として日本古来の漢方や医学書に触れ先人の叡智を学ぶことも重要であり、また、建学の精神である「学問による人間形成」に結びつく学士力・人間力の涵養に資することを目的として蒐集しているものである。

【主な展示品】

・西洋の解剖書を翻訳・刊行した日本最初の本格的な医学書である「解体新書序図」（與般亜覃闕児武思著、杉田玄白訳 安永３年刊行）

・中国の医学書で漢方医学の原典ともいわれる「傷寒論辨正」（寛政 2 年刊行複製）、「傷寒論集成」（寛政 2 年刊行）などの傷寒論関連書

・江戸時代を代表する養生書として知られる「貝原養生訓」（貝原篤信編録、天保 5 年刊行）

・薬匙（やくし、鎌倉時代、江戸時代）

・薬籠（やくろう、江戸時代）

・薬缶（やかん）

今回の出展により、多くの方に当時の医学の様子がうかがえる古書や、実際に使われていた薬匙、薬籠などをご覧いただけたこと、また、展示品を通して一般の方と交流ができたことも有意義な機会となった。

（女子栄養大学）

女子栄養大学図書館は、展示テーマを「育てる、作る、食べる－農園体験から－」と題し、創立者である香川綾により食・健康に関わる人材育成に欠かせないものとして作られた『農園』が、現在も“農園体験”という授業科目により、その精神を引き継いでいることを、農園作業・農園の今昔写真をはじめ、植物関係、食育関係の資料を展示し伝えることにした。また、今年キャンパス内に憩いの場所として四季を彩る花壇〝プチ農園〝ができたので、図書館報「われもこう」で〝プチ農園〝特集として植物の小説、図鑑、料理本をとりあげた。その頁を、ポップアップ絵本のように仕上げ紹介することにし、学生の描いたプチ農園のイラストも展示資料とした。

＜展示資料との“ふれあい”＞

農園から 4 種類の草花を持参し、これらの名前をあてるクイズを実施し、全問正解者に小さな草花のブーケを提供した。4 種類は、「さつまいも、にんじん、にら、そば」といった私たちが日常よく食べる食材にし、回答者には展示資料の該当箇所を開いてヒントとした。展示資料の中で一番人気の資料は、種から花までの成長過程が描かれている絵本*だった。

*「たべられるしょくぶつ」　森谷憲ぶん；
　寺島龍一え（かがくのとも傑作集）
　福音館書店　1972 年刊

（聖学院大学）

2010 年は“電子書籍元年”を意識して「ライブラリアンは電子出版の夢を見るか？ / Do Librarians Dream of “iPad”?」と題し、実施した。

その主な展示内容は、本の歴史を視覚的に辿ることをイメージし、メソポタミア文明の粘土板（複製）から、ぱぴるす、写本、活版印刷、絵巻、折本、和本、洋本、電子書籍用端末などの現物を展示。一目でわかる書籍の形式的違いを中心に紹介した。また美装本や仕掛け絵本など少し変わった本も一緒に展示した。

特に来場者の興味をひいたのは、電子書籍ブームの火付け役となった Kindle、iPad といった電子書籍用端末の体験コーナーと、世界一小さな本とされる「マイクロブック」であった。来場者の方たちは電子書籍用端末を実際に手にとり、その重さや見易さ、使い勝手などを試されたり、1 辺が 0.95 ミリと虫眼鏡でもその形を確認するのは大変な小ささのマイクロブックに印刷されている文字を確認したりと、様々に変化してきた本の形を楽しく体験された。

また本学における電子化への取組みである「聖学院学術情報発信システム SERVE」(機関リポジトリ)の紹介や、そのシステムを通じて社会に還元される大学の研究成果についての紹介も行った。

（文教大学）

文教大学越谷図書館は『フランス近代国民教育制度の成立と発展』と題し、フランス大革命以降の国民教育の成立に関するオリジナルの史料を出展した。18 世紀末までフランスの教育を担ってきた教会勢力を排除し、「国が国民の教育を行う」という「教育の世俗化」の動きを具体的に示す史料である。

出展の目玉は『王国の諸中等学校における公教育に関する法律（法律番号第 1419)』。フランス大革命の 2 年後パリ市民に向け掲示された交付文書で、「1771 年 3 月以降「市民宣誓」をしない限りいかなる聖職者も教育を行えないことになっていたが、オラトリオ派の教師たちは国家への忠誠を宣誓したので暫定的に教育を続けることができる」、という内容のものである。18 世紀末のフランスで実際に街頭に貼られ、パリ市民の熱いまなざしが注がれたポスターを約 200 年の時を経て県民のつどいで展示でき感慨深く思う。

その他、現在のフランスにおける超エリート養成機関グランセコールの一つ、エコールポリテクニック理工科学校の前身である公共事業中央学校の『カリキュラム』や『中等学校教員の給料に関
する国民公会の政令』などを出展した。

（立正大学）

立正大学図書館は、昨年に続き、田中啓爾文庫の中から出展した。
田中啓爾文庫は、近代期の日本の地理学において重要な功績を残された田中先生が、本学に寄贈された 14,000 点余りの収集・著作資料であり、中でも古地図や絵図など資料価値の高いものが多数ある。

今年の展示内容は、江戸期に出版された絵図や和装本の中から一般の関心が高いと思われるものや、明治初期に出版されたちりめん本などを展示した。長崎和蘭陀屋舗圖（軸物）は今年も展示した。

ちりめん本、江戸切絵圖は、特に人気があり、直接触ることが出来たので興味を示された方が多かったようである。道中雙六図は、双六でありながら版画は精巧に描かれており、細かな部分を虫眼鏡で観察して楽しんで頂いた。

主な出展品目:「ペルリ提督日本遠征記」、「旅行用心集」、「長崎聞見録」、「長寄圖」、「豆洲下田港之圖」、「江戸より長崎まで道中圖」、「新版東街道五十三次行列雙六」、「参宮上宮道中一覧雙六」等